

平成30年2月吉日

関係各位

日本ミドルボート協会  
会長 永松 馨介



## 日本ミドルボート協会設立のご挨拶

謹啓 厳寒の候、貴職ますますご清栄の段心よりお慶び申し上げます。

平素は、ヨットレースの主催・後援・協力等セーリングスポーツの発展にご尽力いただき厚くお礼申し上げます。

さて、かねてより日本ミドルボート協会設立の準備を鋭意進めおりましたが、お陰さまで別紙「設立趣意書」のとおり、下記日本ミドルボート協会を設立する運びと相成りました。また現在、公益財団法人日本セーリング連盟特別加盟団体入会申請中でございます。これも皆様のご支援とご協力の賜物と心より感謝する次第です。

このうえは、皆様のご期待に添えますよう日々精進する所存でございますので、何とぞ倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

甚だ略儀ではありますが、書中をもちましてご挨拶申し上げます。

謹白

### 記

◎名称 : 日本ミドルボート協会  
◎設立 : 平成30年1月27日  
◎役員 :

会長	永松 馨介	(関西、リソターダ)
副会長	木原 和喜	(関東、チャーチャンV)
副会長	中村 孝	(東海、ホーネット)
副会長	津田 徹	(九州、ウィンドワードV)
事務局長	奥井 光明	(東海、シーファルコン)
理事	石渡 一夫	(関東、プロパガンダ)
理事	田中 慎一	(関西、アグネス)
理事	船澤 泰隆	(関西、夏子)

◎会員艇数 : 50艇 (平成30年2月8日現在)

◎事務局 : 住所 愛知県名古屋市中区栄3-11-31 グラスシティー栄601  
電話 052-263-6970  
FAX 052-261-3562  
メール yiz03753@nifty.com

◎添付書類 : 日本ミドルボート協会設立趣意書

## 日本ミドルボート協会設立趣意書

1970年から1990年にかけてIORルールのもと1/4、1/2、3/4、1Tonの各クラスが確立し、クラスルールのもとレースは大きな盛り上がりを見せた。しかしながら、バブル崩壊後の低成長期時代となる2000年代に入ると、レースに積極的に参加する艇は徐々に減少しヨットレース界の今後を憂う声もささやかれ始めた。

一方、IOR時代の1/2、3/4クラスのいわゆるミドルボートクラスは、適当なサイズで費用面やクルーの数など手軽にレースに参加できるメリットがあり、関東、関西、東海にミドルボートクラブが設立され各地区でミドルボート選手権が開催され、ヨットレース界も再び盛り上がりを見せてきた。

こうしたかつての活況を取り戻しつつある中、ミドルボートクラスの日本一を競いたいという機運が高まり全日本選手権が開催されたものの当初の大会では遠征参加艇はまだまだ少ない大会であった。2012年7月に東海で開催した「全日本ミドルボート選手権」でようやく遠征参加艇が半数を越えることができ、その後の関西、東海で交互に開催された本レースへの参加艇は関東、関西、東海、九州と全国に及び、まさしく「全日本」の冠にふさわしいレースとして定着しつつある。

2017年7月蒲郡で開催された全日本ミドルボート選手権のオーナーズミーティングの折、参加オーナーから「現在の状況ではミドルボートの定義、開催地の決定、ルール等があいまいであり、全日本選手権にはふさわしくない面もある。全日本ミドルボート選手権を開催できる全国的な組織で且つJSAFの特別加盟団体を我々で発足してはどうか？」という提案がなされ、ミーティング参加オーナー全員の意見一致をみることとなった。

日本全国のミドルボートオーナーによって組織され、公平にミドルボートクラスを定義づけ、ルールを策定し、開催地を決定する全国的組織ができることによって、「全日本ミドルボート選手権」が真のミドルボートクラスの頂点のレースとして開催されること、そして参加チームが切磋琢磨することによって本クラスの普及と技術の向上に大きく貢献していくことを期待して日本ミドルボート協会を設立する。

2018年1月27日

### 日本ミドルボート協会

会 長	永松 馨介	(関西)	リソターダ
副会長	木原 和喜	(関東)	チャーチャンV
副会長	中村 孝	(東海)	ホーネット
副会長	津田 徹	(九州)	ウインドワードV
事務局長	奥井 光明	(東海)	シーファルコン
理 事	石渡 一夫	(関東)	プロバガンダ
理 事	田中 慎一	(関西)	アグネス
理 事	船澤 泰隆	(関西)	夏 子